

朗和基督會週報 第百三十二號 五月二十四日

發行所 白石 情 每週未曜日發行

○今週の標語

「心よ、目を覚めよ。 是れ、内なる光を 有る者こそ、能く見る者 なるべし。 心よ、目を覚めよ。 是れ、内なる光を 有る者こそ、能く見る者 なるべし。」 (コリント二・14)

○聖日拝拝順序

五月廿七日 午後二時 救急堂
日会 茶 牧 師

奏 樂 (五・六)

招拜及言講

讚美歌 (五・四)

聖書拜讀 (コリント一・1)

祈 禱

讚美歌 (二・〇)

証 教 平原中校

「召を蒙れりし者」

讚美歌 (五・七)

祈 禱

報 告

頌 讚 (五・八)

祝 禱

○青年部諸君會

○祈禱 廿七日午前十時 救急堂
日会 ヤヤロット師

「希望は破れつゝ望む」

○Y.P.C.F. 廿七日夜七時 西会館
日会 青年部諸君會

「希望は破れつゝ望む」

○青年部諸君會 廿日(水)夜七時
日会 青年部諸君會

「希望は破れつゝ望む」

○日曜學校 (廿七日)

全七校 十時 救急堂

「希望は破れつゝ望む」

「希望は破れつゝ望む」

○諸集會案内

○夏季學校放學會 事務所
廿五日(金) 午後二時半

○聯合傳道會 救急堂
廿七日(日) 午後七時半

○青年部諸君會 平原中校
廿七日(日) 午後七時半

○青年部諸君會 平原中校
廿七日(日) 午後七時半

○夏季學校開始 (前週四ヶ所)

廿八日(月) 一六日(金)

第一校 東会館 三・三・三
第二校 西会館 三・三・三
第三校 救急堂 三・三・三
第四校 青年部諸君會 三・三・三

◎新しき誠命

藤 左 吉

主イエスは己が世の終りの近づけるを知り、弟子等の將來を思ひ且責任を在る責任の重大なることを考へられて、怒と教訓を並べ給はれた。その言はヨハネ傳十三章一十七章に記録せられてある。之を讀む時に主が如何に緊張して居られたか想像することも出来る。彼等在此時で弟子として惜過せられて居るを主は今彼等と反し呼ぶ給ひ終には若子とも呼ぶ給はれた。師弟の交際、親友の情、親子の愛と如何にも濃みに混雜し、美化を見る。

主は弟子等に萬民の救といふ偉業を依託せらるゝのであり、如何に嚴肅なる音調で「若子よ、汝等も誠命を汝等に與ふべし。我汝等と愛せし如く汝等も互に相愛すべし。汝等相愛せし之に由りて人々汝等の或弟子なることを知りべし」と告げ給はれた。和訳は愛であることを訓諭せられたのである。而して之を記したヨハネは後業神の恩恵の無限なるを悔り多時の印象を忘るゝことが能はず。此言を以て基督者の最高の道徳訓とす。救急堂の大精神と信じたのである。世に於ては「僕等ヨハネは齡百歳に近づき歩行も不自由となりたる時にも毎日曜日には世にエヤソの救急に参列し禮拜の終りに「若子よ、汝等互に相愛すべし」と言ふなり。或人が何故に毎日曜日と言ふを繰返さるるやと問ひにこれに對して「此は主の誠命にして若し之を實行せば之に價れることなし」と答へたりと云ふ口傳を言ふに遠く居る。以て當時の弟子等の感激の如何に深かりしかを想像するべしと云ふべきである。

此の新しい誠命が我等の朝夕の祈りに現れて居るの如く、我等も愛する者とし給へと祈らるるには犯せざる教々の罪を懺悔してその教を奉ふ。然る今日も亦主イエスと我等を愛し給ひ、如く相愛することを導く給へと祈らるるが如く、我等の心を導く。或る教會では禮拜毎に僕等諸君を祈

○婦人聖文會

廿九日(火) 午後二時半
日会者 古墳友人

○聖書研読會 九ノ上
廿九日(火) 午後七時半

○モリヤルデー 慕教會
廿日(水) 午前九時半

日会者 茶 牧 師

平原中校

救急堂

平原中校

救急堂

